

学校概要

創立 71 周年	学校長 西 嘉之	副校長 今井 雅彦	学期 3 学期制	児童・生徒数 588 人
学級数 一般級: 15 個別支援級: 4			主な関係校: 井土ヶ谷小学校・大岡小学校・(六つ川小学校)	

学校教育目標

向上心を持ち、友情をはぐくみ、明るく、生きる力あふれる南中生 = 学習、行事、部活動を重視して生徒を育てます=  
 ○ 人の話を聞く姿勢と、確かな学力を伸ばします。 .....(知)  
 ○ 元気にあいさつし、自分と仲間の命や人格を尊重する豊かな心を育てます。 .....(徳)  
 ○ 心と体を大切に、健康な生活を心がける学習を進めます。 .....(体)  
 ○ まちとかかわり、社会の一員となるために、自分のできることを考え行動する力を育てます。 .....(公)  
 ○ 他の国の伝統や文化を尊重し、国際社会に向けて開かれた心を育てます。 .....(開)

学校の特徴

- 学区には、駅に隣接した商店街や公共施設があり、学校への協力も厚い。保護者・地域も協力的である。
- 小中ブロックの小学校からの進学が中心で、授業参観、部活動体験などで、連携が充実している。
- 比較的経験の浅い職員が多いが、経験のある職員と連携しながら、学校運営にあたっている。
- 生徒は、行事に積極的に取り組み、挨拶もしっかりと行うことができる。
- 学力・学習状況調査からは、基礎・基本の定着に一層取り組む必要があると考えられる。
- 学校生活アンケートからは、自らの考えを発表したり相手の考えを聞くことができるような授業展開に取り組む必要があると考えられる。

学校経営中期取組目標

- 1 あかるく、仲よく、たのしい、あ・な・たの学校、わかり合い、たすけ合い、信じ合える、わ・た・しの学校づくり  
 ・互いを認め合い、助け合うことのできる人権尊重の教育を推進し、温もりのある指導を実現することにより、自分を大切に、他人を認めることのできる生徒を育成します。
- 2 個に応じた学習指導を行い、基礎基本の定着による確かな学力を伸ばすことにより、生きる力を育てます。
- 3 「主体的・対話的で深い学び」の考えを導入し、子どもたちの意欲関心を高め主体的に学習に取り組む姿勢を育成します。

小中一貫教育の取組

a5 ブロック : 南中学校・井土ヶ谷小学校・大岡小学校

9年間で育てる子ども像	・自分に自信と誇りをもち、夢の実現に向け進路選択できる子ども ・地域社会の一員として自覚をもち、地域に関心をもって貢献し認められる子ども
自校の具体的取組	・ブロック授業研究を行うと共に、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)からの学習意欲を高める授業」をテーマに教科研を進める。(年2回実施) ・中学校において、部活動体験を行うことにより、中1ギャップを解消する。(年1回実施) ・子ども像を共有しながら児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を行う。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	・基礎・基本の定着から、授業に意欲的に学習する姿勢を育てる。 ・「主体的・対話的で深い学び」の考えを導入する。	・一人ひとりの生徒の基礎的基本的な学力を定着させるために、指導方法の工夫や個に応じた指導及び家庭学習の習慣付けなどを行う。 ・生徒が自らの考えを発表したり、相手の考えを聞いたりして、より主体的に学習に取り組めるように、「主体的・対話的で深い学び」の考え方を取り入れた授業展開を研究していく。
豊かな心	・教科学習や道徳、特別活動(行事)の中で、自尊感情や自己有用感を高める。	・教科学習や道徳、行事を通して生徒一人ひとりが成長を感じられる指導や評価を大切にする。 ・行事等の活動を通して、人とかかわりをもつことで自分の存在を肯定的にとらえ、楽しさを感じ、自らの働きかけで人の役に立った、人に喜んでもらったなど相手の存在によって得られる「自己有用感」がもてる指導に努める。
健やかな体	・生徒の実態を把握し生涯を通じて運動に親しもうとする基礎体力をつける。 ・自他共に健康で前向きな生き方を選択する生徒の育成を目指す。	・新体力テストの調査結果を受け、持久力を向上させることを重視しながら、その他の必要がある体力や能力を意識しながら学習に取り組む。 ・日々の健康観察の充実を図り、生徒の実態、課題に応じた健康教育の充実と保健指導の推進に努める。 ・学校保健委員会の活動を推進し、食生活や生活習慣を中心とした健康教育の充実を図る。
児童生徒指導	・いじめ、不登校などの早期発見、早期解決を目指す。 ・誰もが相談されやすい先生になれるよう関係機関との連携を図る。	・いじめや不登校の早期発見に努めるために、年3回、事前アンケートを取った上で生徒の悩みを聞き、教育相談を実施する。また、日々のコミュニケーションを多くとれるように、休み時間には生徒の近くで寄り添えるように努める。 ・スクールカウンセラーなどとの連携を図るために、気になる生徒がいれば報告・相談を常にしていくことに努める。
地域連携	・地域行事への参加・ボランティア活動・地域防災への取り組み等を通じて、地域と協働して生徒の健全育成を目指す。	・地域の祭り、「みなみ祭り」「桜まつり」等の区の行事への参加を積極的に促し地域や区と連携しながら取り組む。 ・地域防災拠点訓練に生徒会役員を中心とし部活動の生徒なども参加し、地域の方々と協力しながら地域防災と災害時の支援活動のお手伝いをする。 ・部活動や委員会活動などで取り組めるような地域連携について検討、実践する。
キャリア教育	3年間を見通した進路指導計画の中で、自己理解を深め、適切な進路選択ができる能力を培うように指導する。	・身近な人たちとの関わりを通して自己を見つめる。その中で自分の生き方を考える。 ・職業調べ、インタビュー、職場体験を通して地域とのつながりを深める。挨拶や敬語の使い方を学ぶ。 ・進路選択において、自分自身の適性を知り、さらに自己理解を深め、具体的な進路に結び付ける。
いじめへの対応	生徒一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また全ての生徒の「教育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	・生徒一人ひとりの状況についての記録を蓄積、加筆できるようにし、担任や各学年教諭、生徒指導専任教諭が情報を共有してチームによる支援を進められるようにする。 ・「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用するための研究を進める。 ・毎月一度、いじめ防止対策委員会を開催し、いじめの未然防止や対応を定期的に行う。
人材育成・組織運営	・経験の少ない教員の増加を受け、教員の知識や技術の向上を図る。 ・熟練・中堅・若手が役割を理解し円滑な学校運営を行う。	・校内授業研修やメンターチームなどの研修会を充実させる。キャリアステージに応じた各種研修会を積極的に活用し指導力や資質の向上を目指す。 ・特に経験の浅い職員に対して校外の研修会への参加を促す。 ・職員組織の活性化や効率化や負担軽減を目指し、主幹教諭や各主任等のモデルリーダーの指導力を有効活用するため、主幹・学年主任会等でより良い学校運営に向けて検討していく。